

第6回 中学校給食推進連絡協議会 会議録

- 開催日時 平成26年8月15日(金)
9:25~10:45
- 場 所 高津市民館 第5会議室
- 出席者 座長: 川崎市PTA連絡協議会 齋藤会長
副座長: 教育) 中学校給食推進室 望月室長
委員: 小学校校長会 鈴木校長
中学校校長会 渡邊校長、伊藤校長
川崎市PTA連絡協議会 小原前会長、伊藤副会長、宮嶋事務局
川崎市教職員組合 倉田副委員長、阿部書記長
教育) 野本企画課長、市川指導課担当課長
古内教育環境整備推進室担当課長
森中学校給食推進室担当課長、北村中学校給食推進室担当課長
※欠席者: 小学校校長会 山崎校長
教育) 小田桐教職員課長、邊見健康教育課給食担当課長
事務局: 教育) 中学校給食推進室 二瓶担当係長、新田担当、
葛山担当、谷口担当

■内 容 (進行 中学校給食推進室)

— 資料確認 —

— 座長挨拶 —

中間取りまとめについて、保護者の反響が大きかった。特に中学校より小学校の保護者。

また、先生からは給食費の徴収方法について川崎独自の新しいシステムを構築して欲しいとの話があった。

— 資料1説明(「市立中学校に在籍する生徒における食物アレルギーに関するアンケート」の集計結果について) —

委 員 今回のアンケートは中学生が対象だが、小学校を対象とした同じような調査はあるか。

事 務 局 小学校で同様なアンケートはとっていないが、小学校では既に給食を実施しているので、各学校で児童の状態を把握している。

委 員 アナフィラキシーショックの経験について、割合として全国的に同様の傾向か。これだけいると、エピペンを持っている生徒もいると思うが、現場での対応はしているか。

- 事務局 全国的な割合との比較は、していない。
- 委員 全教員が救命救急の研修を受け、小学校も中学校もエピペンについての講習を受けている。学校によっては1～2人はエピペンを常備している。
- 委員 これだけのアナフィラキシーショックの生徒がいるという認識を現場は持たなければならない。
そのリスクは現場（学校）にくる。講習もやっているが、どう対処するのかを考えないといけない。
今の5年生が中学生になったときに、今までアレルギーに気付かなかったとして増えてくることも考えられる。
「食べられない」「食べない」生徒への対応を考えていただきたい。
- 委員 他都市の給食でのアレルギー対応はどうか。
- 事務局 政令市で聞き取りをしたところ、卵と乳等の除去をした給食をしているが、調味料等に入っていることもある。原材料を示し保護者に判断してもらっている。
他の都市では特定アレルギー7品目+1の8品目全て除去の給食を考えたりとか、卵・乳・小麦の3大アレルギー物質を一部抜き・全部抜きでの提供をしている自治体もある。小学校のように自校内に調理場がある場合、規模等により対応できない場合もあるが、共同調理場となると難しい部分もあるが、やっていかなければならないという方向である。
小学生から中学生にあがるまでの発達段階でアレルギーが緩和されていく場合があるが、甲殻類のアレルギーは年齢が上がることによって出てくるケースもある。現在の小学生の割合がそのままかといえば変化していくものだと思う。
今回の調査は保護者の意見であり、医師の意見までは聞いていなかったもので、実際にやる時には医師の判断に基づく調査をしていかなければきちんとした除去食等の対応はできないと思う。実施の前には学校生活管理指導表の提出をしてもらい対応したい。
- 委員 今のこの話を聞くと、確かに小学校では凡そこの傾向。
私の小学校では民間調理委託だが、学校生活管理指導表および家庭配布献立表を見ながら親と面談してアレルギー対応をしている。栄養教諭も給食時間に巡回し様子を見ている。
センター給食でのアレルギー対応について詰めていく必要がある。
エピペンを持っている児童は学校に10人はいないが、相当数いる。先生は夏にエピペンの講習を受け、アレルギー発症時の対応に備えている。

(事務局より説明)

委員 6ページの給食費の額について、学校給食法上、学校給食の実施に必要な人件費については、配膳員も含まれるのか。

事務局 人件費に含まれ、公費負担となる。

委員 各区の保護者向け説明会の日程は、先に予定されている各区のPTA協議会等へ説明時に知らせてもらえるのか。

事務局 現在各区の保護者向け説明会の日程は決まっていないが、早めに決めて各区のPTA協議会にお伝えしたい。

委員 2ページの学校給食を活用した食育の推進について、食育基本法の「知・徳・体」を踏まえ給食を実施し食育を進める等、食育基本法についても可能であれば追記していただきたい。

事務局 検討する。

室長挨拶

10時45分 閉会